

2010年2月26日(金)

自治体とマイスター倶楽部との 連携による「学び」のプロセス

岐阜経済大学 大学院 経営学研究科
マイスター倶楽部 小川尚紀

自治体とマイスター倶楽部との 連携事業の事例

1. 中心市街地活性化のための実践活動(大垣市)
2. 大野町商店街実態調査(大野町商工会)
3. 高山市集落実態調査(高山市)
4. 若者の政策提案促進事業(岐阜県)



どのような連携？
共通点は？

学生自身が地域の課題を調査し、課題の解決案
を実践しながら自治体に提案していくといった**実践
提案型のかかわり**が共通している。

マイスター倶楽部の概要と特徴



・目的

学生が地域に飛び出し、まちの課題に直接触れ、考え、その課題解決に向けて地域の関係者と協働して「まちづくり」を実践する。



・構成 岐阜経済大学の学生21名

・実践グループ活動

TMN(土まるけネットワーク)グループ
防犯コミュニティ研究グループ
若者のしゃべり場創出グループ
フェアトレード研究グループ



【大垣市との連携事業】

1. 中心市街地活性化のための実践活動

- 2006年2月には、「中心市街地活性化のための四者協定」が締結され、大垣市、大垣市商工会議所、大垣市商店街振興組合連合会、岐阜経済大学と積極的に連携している。



- 年度ごとに「企画→実践→マネジメント→報告」というサイクルでグループでの事業に取り組む。

1-2. 実践活動の具体例 (TMNグループ)



TMN(土まるけネットワーク)グループでは
コミュニティ・ビジネス(地域の継続的な課題
解決のためにビジネスの手法を用いて取り組
まれる事業)活動を展開中。



活動の成果は発表
会で報告提案!

【大野町商工会との連携事業】

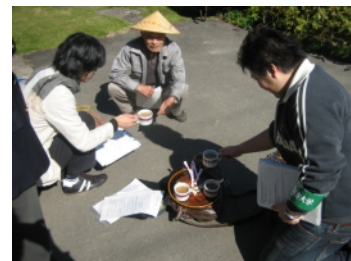
2. 大野町商店街実態調査

- 2007年度、大野町商店街の実態を調査し、活性化案を大野町商工会に提案。
- 大野町商店街でフィールドワーク、アンケート、ヒアリング調査を実施。



3.高山市集落実態調査

- 2008年度、高山市の農山村集落をヒアリング調査。
- 調査前と調査後において農山村の捉え方が大きく変化。



3-2.調査のその後(高山市お助けサミット)

- 高山市「お助けサミット」は、2009年10月17日(土)に、高山市高根町野麦にある「お助け小屋」で実施された。
- 同サミットは、集落実態調査を踏まえる形で進められ、同時に住民と学生の交流の場として位置付けられていた。



4.若者の政策提案促進事業での提案

- 県内大学等の研究室やゼミが主体となり、学生自らが中心に各種の調査や実践活動を実施し、県に対して具体的な政策提案する。



実践提案型の意義

1. 無関心ではなく、批判でもなく、当事者として、ともに社会をつくっていける。
2. 学生にとっては、まちづくり活動を通して自分の人生観を形成する機会を得るとともに、大学での学習・研究を裏付ける過程となる。
3. 自治体にとっては、地域での具体的体験を通して理解し、感じ、生きた学生の想いを政策に反映することができる。